



# 鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## 聖書の言葉

「わたしは絶えず主に相對しています。主は右にいまし わたしは揺らぐことはありません」

### 聖書(詩編第16編8節)

牧師 河合裕志

「主(神)に相對しています」とは主と向い合っている、主を前に置いている、主と親しく對面している、ということ。この主から話しかけられたり、主に話しかけたり、といった間柄。

主からの語りかけは聖書を通してとか祈りを通してということ。主への話しかけは祈りになる。祈りとは願い、感謝、罪のざんげ、他者のための執り成し、といったものが含まれる。

今主と詩人はこんな間柄で「絶えず」いたみたい。つい主が前にいることを忘れてしまう私達とは違うよう。そんないつもいつも主に相對していたら息苦しくならない? 窒息してしまわない? それがどうもそうでない。むしろ喜びのよう、平安・感謝のよう、力の源のよう。そうであれば私達も「絶えず主に相對して」歩んで行きたいもの。

次に「主は右にいまし わたしは揺らぐことはありません」と。今度は「右」ときた。さっきは「前」。左ではなく右という。何か意味がある? 右、ヤミン、これは右手とも訳せる。右手は普通劍とか槍を持つ手で「力」のシンボル。

イエスは会堂に入ったところそこに片手の萎えている人を見た。それは「右手」だ

った。右手は通常、働く手、力の出る手。イエスは気の毒に思い「手を伸ばしなさい」と声をかけこれをいやしてしまう。(ルカ6・6以下)。

今主が右にいます、というのは力ある存在が私の脇に、そばにいてくれる、ということなんだろう。だから私は揺らぐことはない。揺らいで倒れそうになった時につっかい棒になってくれると。こんな者が共にいてくれればそれは心強い。

お遍路さんは「同行二人」と書いた笠をかぶって巡拝するみたい。空海さんと二人の思い。これは心強いこと。「主は右にいまし」もそんな思いだろう。私の傍らに主が共にいて一緒に歩いていてくれている。この主は天地の創造者なる神。またはイエス・キリストと言ってもよい存在。神という遠い感じ、イエスという近い感じ。イエスは人間となってこの世に来た神だから。そして今十字架・復活を経て創造者であり父である神の右に座している。同時にイエスは地上に生きる私達に目に見えない姿で、聖霊として共に歩いてくれている。「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたと共にいる」(マタイ28・20)とイエスは今日も語りかけ励ましてくれている。

### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前10時

牧師面談：水曜日午後1時~7時